

日本人学校・補習授業校 タマテバコ

トビラを開けたら、いろんなものが見えてきた……



エージファイブ
新しいプロジェクト(AG5)が始動します!

AG5運営指導委員会委員長・日白大学長 佐藤郡衛

このたび、G-ONE (Global Overseas New Education) プロジェクトが大きく発展することになりました。本誌7月号のトピックスでお知らせしたように、海外子女教育振興財団は、文科科学省の委託事業である「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」を受託することになったのです。その概要をお知らせします。

AG5プロジェクトのスタート

新事業のベースになったのが、G-ONEプロジェクトです。この新事業は、「在外教育施設特有の課題の解消」及び「在外教育施設をグローバル人材育成拠点と位置づけ、より高度なグローバル人材育成を見据えた先進的プログラムの開発・推進」を図ることを目的にしたものです(詳細は本誌二〇一七年五月号をご参照ください)。

私たちは、これをより具体化し、第一に「海外に在住する子どもたちに高度なグローバル人材としての基礎力を育成すること」、第二に「国際結婚家庭や永住者の子ども増加に伴う日本語能力向上のための教育を提供すること」、そして第三に「在外教育施設が日本文化の発信の拠点としての役割を果たすこと」を課題にしました。そこでこのプロジェクトを、高度グローバル人材育成事業の頭文字と五つのプロジェクトを走らせることから「AG5 (Advanced Global Five) エージファイブ」プロジェクトと呼ぶことにしました。

取り組みの基本的な姿勢

この事業の主要な目的は、在外教育施設を高度グローバル人材育成の

拠点にするという点にあります。

日本人学校や補習授業校をいくつか選び、その学校の課題を解決するとともに、先導的な実践を行うことでこれからの教育の方向性を示し、そしてそれを他の学校に普及させていくことがねらいです。これまでと異なるのは、財政的な支援も行うことが可能になったことです。

AG5プロジェクトの基本姿勢は、G-ONEプロジェクトと変わりません。本誌二〇一六年六月号にG-ONEプロジェクトの三つのタスクを掲げました。

一つ目は「在外教育施設の実態把握のための調査研究を行うこと」、実態をきちんととらえて、その学校に合った支援を考えるためです。二つ目は「アクションリサーチ型」の支援、新しい取り組みや実践を行うおうとしている学校に直接支援を行い、いっしょに取り組みながら課題を解決していくことです。そして三つ目は「広報と普及活動」、先導的な実践を行っている学校とその成果を広く知っていただく活動です。AG5プロジェクトでもこの基本的な姿勢を貫きたいと考えています。

実際に日本人学校や補習授業校に出向き、教職員のみならず、保護者や運営委員会の方々の意見交換、

現地での研修なども行っていきます。私たちは評論家や解説者でなく、日本人学校、補習授業校の支援者として自らを位置づけています。

五つのプロジェクト

このプロジェクトでは、次の五つの取り組みを行っていきます。

- ① 日本人学校における高度グローバル人材の基礎的資質形成のためのプログラム開発
- ② 日本人学校における日本語教育プログラム開発
- ③ 日本人学校における教員(学校採用教員)の指導力向上のためのプログラム開発
- ④ 補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発
- ⑤ 日本文化発信の拠点形成プログラム開発

各プロジェクトとも選定した在外教育施設を拠点校にして、その学校を支援していきます。そのために、日本国内でプロジェクトチームを立ち上げました。メンバーは、教科教育、国際教育、日本語教育、情報教育などを専門にし、実際に日本の教育界で指導的な立場に立つ方々にお願いしました。メンバーが直接、各学校に出向き、教職員、運営委員会などの方々と話し合いの場を持ち、

相談にのったり、指導・助言を行ったりしていきます。

逆に、日本人学校や補習授業校の先生方が日本国内で学校を参観したり、研究会などに参加したりするよい機会もつくっていきます。国内の学校にも研究協力校という位置づけで、海外からの研修を受け入れたり相談にのってもらったりするような体制をつくっていきます。TV会議や情報機器なども活用して負担がかからないようにもしていくつもりです。以下、各プロジェクトの概要をお知らせします。

② 日本人学校における日本語教育プログラム開発

日本人学校では、国際結婚家庭の子どもや長期滞在者の子どもが増加傾向にあり、日本語力が十分でない子どもたちが出てきています。このため、日本語指導という課題に直面していますが、そのための十分な指導体制をとることができないのが現状です。日本人学校の負担を軽減するために、日本語教育のプログラム開発を行い、それを提供するとともに、指導する教員の研修等を行っていきます。

① 日本人学校における高度グローバル人材の基礎的資質形成のためのプログラム開発

本誌でも紹介してきた香港日本人学校小学部香港校が研究提携校です。同校では二〇一六年からグローバルクラスを設置していますが、小学六年生用のカリキュラム開発の支援と、小学四〜六年生までのカリキュラムの一貫性と体系的を図り、他の日本人学校でも実施可能なモデルカリキュラムの提案を行っています。

さらに、一般のクラスの小学部の英語力の向上を図るためにICT教材等を活用した取り組みも想定しています。

小学部から高等部まである上海日本人学校にお願いしています。

具体的には、主に着任後一年目の教員を対象にした初任者研修プログラムの開発、そして二〜三年目の教員を対象にしたスキルアップ研修プログラムの開発です。どのようなプログラムが必要か、具体的実施体制など現地の要望と実情を踏まえて取り組んでいきたいと思っています。

④ 補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発

これはG-ONEプロジェクトの延長上にあり、まずは補習授業校の実態調査を行い、現状の正確な把握に努めます。ただ、その中でも子どもの日本語力を育成することが最も重要な課題です。子どもたちの日本語力を向上させるためにどのようなカリキュラムが効果的かを検討し、プログラムの開発を行うことにしています。また、ICT教材などの活用方法も検討し、現地で指導可能なプログラムを開発し提供したいと思っています。

③ 日本人学校における教員（学校採用教員）の指導力向上のためのプログラム開発

日本人学校には、政府から派遣されている教員の他に、学校独自で採用する教員がいます。この学校採用教員には、大学新卒者や他の職業からの転職者も多く、教員として更なる資質、指導力の向上が期待されているところですが、研究提携校として、

提携校を想定しています。一校は学校図書館を地域に開放し、地域住民、日本人学校の教員、保護者等が気軽に交流し、さまざまな人たちの居場所になるような「知的交流拠点」を目指している西大和学園カリフォルニア校です。

もう一校はパラグアイのアスンシオン日本人学校です。パラグアイは日系移民八十周年の節目を迎え、アスンシオン日本人学校では日系移民のみならず現地社会との連携を図っています。これまでの取り組みに加えて、日本文化理解や日本語教育のプログラムなど活用できるリソースを収集し、データベース化するなどして、日本人学校を通してそれらの情報を現地社会に提供できるように体制を構築したいと考えています。

以上が概要ですが、できるだけ早く各学校を訪問し、話し合いながら具体の開発を行っていきます。そして、各研究提携校での成果を他の学校に普及していきたいと考えています。各学校と協働して着実に成果を蓄積していきます。ぜひ、新しい試みに注目してください。

（おこわり）文中に記した学校とは七月以降、正式に詳細を協議していく予定です。